

感染症マニュアル

*はじめに

このマニュアルは、「特定非営利活動法人こどもえんチャトンのおうち」(以下、チャトンのおうち)における職員が、感染症等に的確且つ迅速に予防または対応する為に必要な事項を定めて、利用者、職員の生命・健康を守る事を目的とする。

一般にウイルス・最近・寄生虫等の微生物によって引き起こされる病気をまとめて感染症といい、人から人(生体から生体へ)へと移っていく場合を伝染病と呼びます。

集団生活では、伝染性の病気は流行する危険性が高くなります。衛生管理に努め、病気を早期に発見し、適切な対応をすることが集団感染を予防するために必要となります。

感染症が出た場合は、直接接触を避ける為に、隔離したり、環境を整えたり、消毒をする等の細やかな配慮が必要となります。

1. 衛生管理

職員

1. 職員が感染源とならない為に

チャトンのおうちで働く全ての職員は、年一回の健康診断を必ず受けなければなりません。指定の健康診断が受けられない場合は、各自で受信し報告してください。

職員は、職場児童発達支援事業所であることを認識し、自己の予防接種歴、既往歴を確認し、不確実な時は、医療機関でその交代の有無を調べ、早期に予防接種を受けておく方が望ましい。職員は、自らの健康に留意し、日々の生活の中で体調が優れない時は、早めに医療機関の受信をしなければなりません。特に注意が必要なものとしては、インフルエンザの様な発熱時は2日以内に、眼充血や目やにがある場合は、速やかに専門医へ受診することが大切です。

2. 職員の服装及び衛生管理について

- (1) 清潔で動きやすい服装、汚れたら着替えられるように準備しておくこと。
- (2) アクセサリー等の除去(ネックレス、イヤリングなど)
- (3) 爪は短く切る。勤務中はマニキュアをしない。
- (4) 手に傷がある時は、食品に直接手を触れない。
- (5) 衛生管理の基本は、手洗いにあることを常に意識し励行すること。
- (6) トイレ以外の手拭きタオルは個人別に所持し、毎日また汚れたらその都度交換する。

利用児童

- (1) 爪の手入れは週一回してもらうことを保護者にお願いする。
- (2) トイレ使用后、食事前、動物を触った後は、必ず手洗いをするよう指導する。
- (3) 利用児童のタオルは個別とし、毎日清潔なタオルを持って来てもらう。

2. 予防接種について

- (1) 入園児、面接時に、既往歴、予防接種状況を把握する。
- (2) ワクチンで予防できる疾患は、接種時期に積極的に受けるように勧める。
- (3) 市から公報される予防接種スケジュールを参考にして、保護者への相談、指導に役立てる。

3. 注意事項

- (1) 職員は感染症の症状の見られる園児の早期発見に努める必要があります。
- (2) 職員は日頃から園内の環境整備に心掛け、ゴミや汚物の処理をきちんと行うことが重要です。
- (3) 職員は、感染症が発生した時や、発生しやすい季節等には、保護者に注意を呼び掛ける他、感染拡大の防止に努める必要があります。
- (4) 回復後は必ず、「通所許可証」の提出をもって、登所を可とします。

病名	主な病状	登園のめやす
インフルエンザ	高い発熱、頭痛、食欲不振、関節の痛み、鼻汁、喉の痛み、咳等様々な症状を伴います。	発症後5日を経過し、且つ解熱後3日を経過してから
麻疹(はしか)	最初の2~3日は、熱、咳、鼻水、目やに等の風邪の症状が出、一旦熱が下がりますが、再び高熱が出ると同時に顔、耳、首の後ろや胸の上方から発疹が全身へ広がっていきます。	解熱後3日を経過してから(約2週間)
風疹(3日はしか)	感染して2~3週間後に、赤くて小さな発疹が全身にできます。発疹は麻疹に似ていますが色も薄く細かいことが多い傾向にあります。	熱がなく、発疹が消えてから
水痘(水ぼうそう)	感染して2~4週間後に、顔、頭髪部、胸、お腹、背中等から紅斑が出現し、数日以内に水ぶくれができます。	全ての発疹がかさぶたになってから
流行性耳鼻下腺炎	耳の下(耳下腺)が腫れて痛がります。普通左右とも腫れますが、片方だけのこともあります。腫れは、1週間程度で軽快して行きます。	腫れがひいてから全身状態が良好になるまで
結核	数週間から数か月続くか、或いは現れては消えることを繰り返す咳、たん、発熱など(多くは微熱)	感染の恐れがなくなってから
咽頭結膜熱(プール熱)	39~40度の高熱が3~7日間続き、強い喉の痛みがあり、目は充血します。プールに入らなくてもうつります。	主な症状が消え、2日経過してから
流行性角結膜炎(はやり目)	目が充血し、腫れて目やにが出ます。	症状が消えてから
百日咳	くしゃみ涙がでる、軽い咳、微熱といった風邪のような症状からやがて激しく咳き込むようになります。	特有の咳が止まってから
腸管出血性大腸菌感染症(0157など)	腹痛と激しい血便があります。	症状が治まり菌陰性が確認されてから
帯状疱疹(ヘルペス)	胸、首、顔、腰等に小豆大の水疱が帯のように分布すると共に、ぴりぴりとまたは締め付けるような痛みを伴います。	全ての発疹がかさぶたになってから
マイコプラズマ肺炎	発熱、乾いた激しい咳が出、全身倦怠感、頭痛等を伴います。	熱や激しい咳が治まってから

手足口病	手、足、おしり、口の中等に小さな水ぶくれができます。時に高熱が出ることもあります。	熱がなく、普段の食事ができる事
伝染性紅斑 (りんご病)	頬に林檎のような紅斑ができます。また手足にも赤い斑点やまだら模様ができ、かゆくなることもあります。	全身状態が良いこと
ウイルス性腸炎 (ノタ・ロタなど)	突然の嘔吐、水のような下痢(レモン色～白色)になります。熱が出ることもあります。	下痢等の症状が治まっている事
ヘルパンギーナ	乳幼児に流行する夏風邪の一種で、38～40度の熱が出て、喉の奥に水ぶくれができます。	熱、口内炎がなく普段の食事ができる事
突発性発疹	多くは一歳前後の乳幼児にみられ、三日程度の高熱が続き、解熱すると共に発疹が見られます	解熱し全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	鼻周囲の小さな水膨れ、かさぶたから始まり、掻いたり、かさぶたを取ったりしているうちに、やがて全身にも水ぶくれが広がります。	湿っている部位が被覆できる程度の物であること
伝染性軟属腫 (水いぼ)	接触感染により、2～5ミリぐらいの中央が窪んだ軟らかくて、白っぽいいぼができ、体や手足に広がって行きます。	(掻き壊し傷から汁が出ている時は被覆すること)

(麻疹、結核、腸管出血性大腸菌感染症に一人でもかかったら中央保健所へ連絡します。)

※ 頭虱症(しらみ)

家庭と園とで協力して頭髪チェックし、卵がなくなるまで次のようにする。

- 成虫や卵は、梳き櫛でブラッシングしたり、卵はしごいて取ったり、一本ずつはさみで切ったりして除去する。
- 寝具類は日光消毒する。
- 帽子などは別保管する。
- 午睡時は、他児の頭と接触しないように配慮する。